

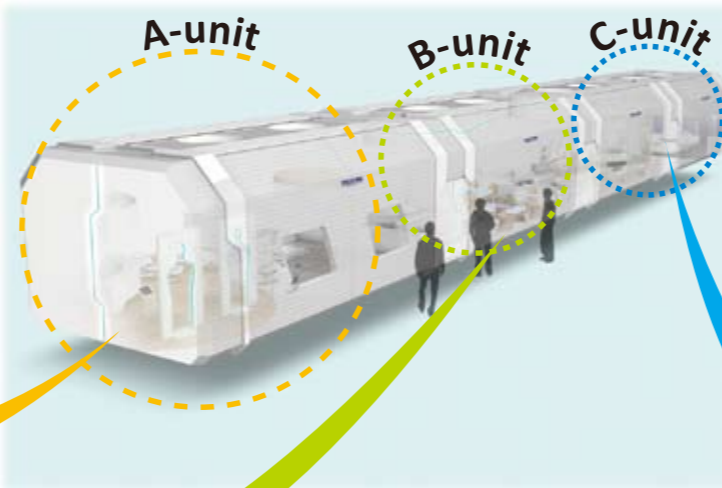
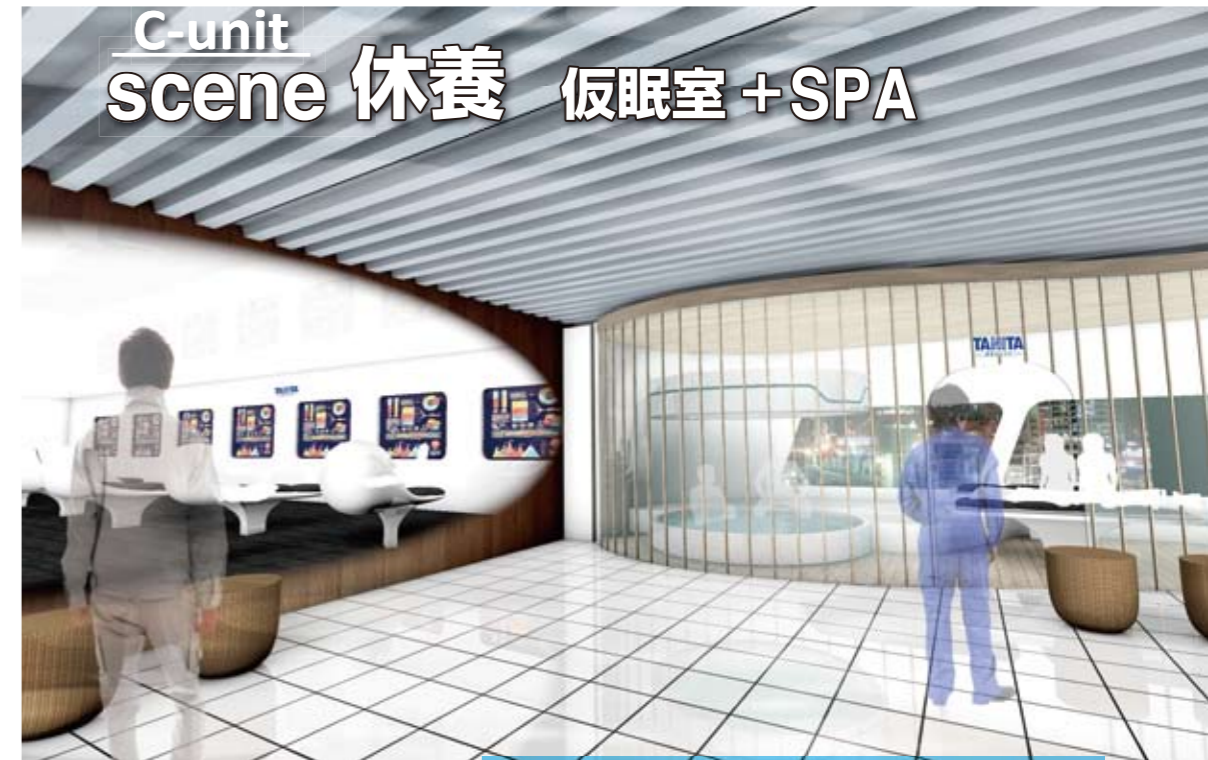
ミライのケンセツゲンバ

はかることから始まる健康な現場

異業種のクリエイターに建設業の課題を抽出し、解決策を示していただく「ミライのケンセツゲンバ」。今回はタニタさんと丹青社さんにお願ひしました。



ミライ のケンセツゲンバでは、体組成や血圧などの健康データを自動計測し、作業量に応じて最適な食事が提供されるシステムが構築されているかもしれません。日々の健康データはネットワークで管理され、メンタル面、フィジカル面でも働く人をサポート。現場で常に最大のパフォーマンスが発揮できたならー。建設現場のあり方が変わりそうです。



8:15 a.m. T君(24歳)は、建設現場で工事係を務めています。人型ゲート(図の左)を通り、朝のヘルスチェックをすると、ガラススクリーンには「異常なし」の数値が。フィットネス機器を使って始業前のウォーミングアップを始めました。一方、風邪気味だと言っていた同期のK君(24歳)は「要注意」の数値が出て、コンサルブースへ。ドクターの遠隔診断で、今日は無理をしないと言われました。

※FITSME=タニタがプロデュースする30分フィットネススタジオ。

3:20 p.m. 午後の休憩でT君は15分ほど仮眠をとることに。スリープスキャンのデータは、「睡眠の状態」が健康であることを示していました。一方、同期のK君のデータは呼吸、脈拍、体動ともに安定していなかったようです。ドクターに帰宅を促されました。終業時間まで働いたT君は、翌日に備えフィットネス施設で体を動かすとSPAで体をほぐし、気分をリフレッシュしてから現場を後にしました。

※スリープスキャン=タニタの睡眠計。寝具の下に設置すれば、眠りの状態をチェックできる。



現場の環境をどう変えていくのか。「リラックスして現場に出てもらいたい。仕事が終わったら、ゆったりして帰ってほしい」とタニタの猪野室長。新潟県長岡市で展開している「タニタカフェ」のコンセプトである「ウェルネスサロン」を未来型に発展させ、必要な機能をユニットで組み合わせるシステムを提案してくれました。

「食事」「運動」「休養」をバランスよく取って健康な状態を維持し、現場でのヒヤリハットを抑制。仮眠室やSPA(温浴施設)でリラックスできる環境まで提供してくれます。職員らが現場に出ている空き時間に施設を地域に開放すれば、建設現場のイメージも変わるでしょう。ミライのケンセツゲンバで働くT君の1日を見てみましょう。

0:20 p.m. 午前中の仕事を終え、T君は再び人型ゲートでデータをスキャンしてカフェテリアへ。メニューを選択すると、午前中の作業量に応じて最適なボリューム・カロリー、栄養バランスが自動調整されます。T君の食事は1,160kcal。事務仕事をしていた1副所長(42歳)よりかなりのボリュームが。「現場と事務所を何往復もしたっけ」。思いのほかカロリーを消費していたようです。力仕事もしたので、タンパク質が中心のバランスのよい献立です。

今回のクリエイター

これまで両社は、タニタ食堂や長岡市のカフェを一緒に作り上げてきた。今号ではタニタの計測機器やプログラムなどのコンテンツをベースにコンセプトを練り、空間づくりのプロフェッショナル丹青社が施設プランを描いた。



タニタブランディング推進室長
広報・新事業開拓統括
猪野正浩さん



丹青社企画開発統括部企画開発2部
プランニングディレクター
真家聡さん



タニタブランディング推進室
広報課兼新事業開拓担当
富増俊介さん



丹青社企画開発統括部企画開発1部
開発プロデューサー
野本康仁さん